

WAP131およびWAP351でのグローバルRADIUSサーバ設定

目的

RADIUS(Remote Authentication Dial In User Service)サーバは、他のネットワークデバイスがユーザ情報を認証するために接続するネットワークサーバです。いくつかの機能では、RADIUSサーバとの通信が必要です。たとえば、WAPデバイスで仮想アクセスポイント(VAP)を設定する場合、ワイヤレスクライアントアクセスを制御するセキュリティ方式を設定できます。Dynamic WEPおよびWPA Enterpriseのセキュリティ方式では、外部RADIUSサーバを使用してクライアントを認証します。クライアントアクセスがリストに制限されるMACアドレスフィルタリング機能は、RADIUSサーバを使用してアクセスを制御するように設定することもできます。キャプティブポータル機能は、RADIUSを使用してクライアントを認証します。

[Global RADIUS Server Settings]では、WAPとRADIUSサーバ間の通信を設定できます。グローバルに使用可能なIPv4またはIPv6 RADIUSサーバは、最大4台まで設定できます。一方のサーバは常にプライマリサーバとして機能し、他方のサーバはバックアップサーバとして機能します。

注：グローバルRADIUSサーバの使用に加えて、WAPの特定の機能を個別の個別のRADIUSサーバ設定を使用するように設定することもできます。

このドキュメントの目的は、WAP131およびWAP351アクセスポイントでグローバルRADIUSサーバ(RADIUS)を設定する方法を説明することです。

該当するデバイス

- ・ WAP131
- ・ WAP351

[Software Version]

- ・ v1.0.0.39

RADIUSサーバの設定

ステップ1: Web構成ユーティリティにログインし、[System Security] > [RADIUS Server]を選択します。[RADIUS Server]ページが開きます。

RADIUS Server

Server IP Address Type: ☒ IPv4
☐ IPv6

No.	Server IP Address (xxx.xxx.xxx.xxx)	Key (Range: 1 - 64 Characters)	Authentication Port (Range: 0 - 65535, Default: 1812)
1	0.0.0.0	*****	1812
2			1812
3			1812
4			1812

☐ Enable RADIUS Accounting

Save

ステップ2:[Server IP Address Type]フィールドで、RADIUSサーバが使用するIPバージョンのオプションボタンを選択します。使用できるオプションはIPv4およびIPv6です。

RADIUS Server

Server IP Address Type: ☒ IPv4
☐ IPv6

No.	Server IP Address (xxx.xxx.xxx.xxx)	Key (Range: 1 - 64 Characters)	Authentication Port (Range: 0 - 65535, Default: 1812)
1	0.0.0.0	*****	1812
2			1812
3			1812
4			1812

☐ Enable RADIUS Accounting

Save

オプションは次のように定義されます。

- ・ IPv4:IPv4 (インターネットプロトコルバージョン4) は、32ビットアドレスを使用する重要なインターネットルーティングプロトコルです。
- ・ IPv6:IPv6(Internet Protocol version 6)は、IPv4アドレスの枯渇に対抗するように設計されたIPv4の後継機種です。128ビットアドレスを使用する

注：アドレスタイプを切り替えてIPv4とIPv6のグローバルRADIUSアドレス設定を設定できますが、WAPデバイスは、このフィールドで選択したアドレスタイプを持つRADIUSサーバにのみ接続します。たとえば、プライマリIPv4サーバにIPv6バックアップを設定したり、プライマリIPv4サーバにIPv6バックアップを設定したりすることはできません。

ステップ3:[Server IP Address]フィールドまたは[Server IPv6 Address]フィールドに、ステップ2で選択したアドレスタイプに応じて、グローバルRADIUSサーバのIPv4またはIPv6アドレスを入力します。

RADIUS Server

Server IP Address Type: ☒ IPv4
☐ IPv6

No.	Server IP Address (xxx.xxx.xxx.xxx)	Key (Range: 1 - 64 Characters)	Authentication Port (Range: 0 - 65535, Default: 1812)
1	192.168.1.101	*****	1812
2			1812
3			1812
4			1812

☐ Enable RADIUS Accounting

Save

注：最初のエントリに入力されたアドレスは、プライマリグローバルRADIUSサーバに対応します。後続のエントリに入力されたアドレスは、プライマリサーバで認証が失敗した場合に順番に試行されるバックアップRADIUSサーバに対応します。

ステップ4:[Key]フィールドに、WAPデバイスがRADIUSサーバへの認証に使用するRADIUSサーバに対応する共有秘密キーを入力します。1～64文字の英数字と特殊文字を使用できます。

RADIUS Server

Server IP Address Type: ☒ IPv4
☐ IPv6

No.	Server IP Address (xxx.xxx.xxx.xxx)	Key (Range: 1 - 64 Characters)	Authentication Port (Range: 0 - 65535, Default: 1812)
1	192.168.1.101	*****	1812
2			1812
3			1812
4			1812

☐ Enable RADIUS Accounting

Save

注：キーは大文字と小文字が区別され、RADIUSサーバで設定されているキーと一致している必要があります。

ステップ5:[Authentication Port]フィールドに、WAPが対応するRADIUSサーバへの接続に使用するポートを入力します。

RADIUS Server

Server IP Address Type: ☒ IPv4
☐ IPv6

No.	Server IP Address (xxx.xxx.xxx.xxx)	Key (Range: 1 - 64 Characters)	Authentication Port (Range: 0 - 65535, Default: 1812)
1	192.168.1.101	*****	1812
2			1812
3			1812
4			1812

☐ Enable RADIUS Accounting

Save

注：WAPと通信するネットワーク内のセカンダリRADIUSサーバごとに、ステップ3～5を繰り返します。

ステップ6:[Enable RADIUS Accounting] チェックボックスをオンにすると、ユーザが消費したリソース (システム時間、送信データ量など) の追跡と測定が可能になります。このチェックボックスをオンにすると、プライマリサーバとバックアップサーバのRADIUSアカウンティングが有効になります。

RADIUS Server

Server IP Address Type: ☒ IPv4
☐ IPv6

No.	Server IP Address (xxx.xxx.xxx.xxx)	Key (Range: 1 - 64 Characters)	Authentication Port (Range: 0 - 65535, Default: 1812)	
1	192.168.1.101	*****	1812	
2			1812	
3			1812	
4			1812	

☒ Enable RADIUS Accounting

Save

ステップ7:[Save]をクリックします。

RADIUS Server

Server IP Address Type: ☒ IPv4
☐ IPv6

No.	Server IP Address (xxx.xxx.xxx.xxx)	Key (Range: 1 - 64 Characters)	Authentication Port (Range: 0 - 65535, Default: 1812)	
1	192.168.1.101	*****	1812	
2			1812	
3			1812	
4			1812	

☒ Enable RADIUS Accounting

Save